LRT 導入による地域交通体系改善を目指した市民団体に関する考察*
—枚方・LRT 研究会を中心として—

Consideration about the civic organization who aimed at improving the local traffic system by the introduction of LRT.
*—Hirakata・LRT Kenkyuukai are made into a main example.—**

平田暁彦**・田畑喜功***・三星昭宏****
*By Akihiko Hirata**・Yoshikatsu Tabata***・Akihiro Mihoshi****

1. はじめに

近年，公共交通機関を活かしたまちづくりというものが見直され始めてきている．こうした中，都市規模によってはLRTの導入を検討し，都市交通問題を解決しようという動きが出てきた．

また，身近な環境への関心の高まりにつれて，市民が地域を見つめなおし，より良いまちづくりに取り組む動きが多くみられるようになった．

モビリティーの確保，都市の活性化，環境問題解決策等といった観点から交通計画においても,近年,市民参加によるまちづくりが盛んになってきている．

このように日本各地で多くの市民団体が総合的な都市交通体系を自らの手で検討し，LRT の導入や路面電車活性化を模索して，市民･利用者の立場から積極的な活動を展開している．

こうした背景のもと，本研究では，LRT 導入による地域総合交通体系の改善を目指している市民団体「枚方・LRT 研究会」の活動に主眼をおき，また日本各地にある他のLRT推進団体の事例と比較することにより，LRT 導入による地域総合交通体系改善を目指す市民団体について運動論の視点から考察することを目的とする．

*キーワーズ：公共交通計画，地区交通計画，市民参加

** 学生員 近畿大学大学院総合理工学研究科環境系工学専攻
（〒577－8502 東大阪市小若江 3-4-1,
TEL06-6730-5880（内線：4271)、FAX 06-6730-1320）
*** 学生員 近畿大学大学院総合理工学研究科環境系工学専攻
**** 正員 工博 近畿大学理工学部社会環境工学科

2. 「枚方・LRT 研究会」について

(1) 枚方市の交通について

枚方市は大阪府の東北部,淀川の左岸に位置する．また大阪市と京都市の中間に位置し,ほぼ20㎞圏内という位置にある．この立地条件から古来より交通の要所として重要な位置を占めてきた．

枚方市の人口は昭和30年から著しく増加し,大都市のベットタウンとして急速に開発が進んだ．その結果，人口の急増，モータリゼーションの進展，そしてインフラの整備の遅れに伴って，市内至る所に交通渋滞が見られ，交通事故が多発し，都市交通問題が大きく懸念される事態に至っている．

(2) 概要

「枚方・LRT 研究会」は枚方という都市における交通問題を考える有志の集まりの任意団体であり，2002年5月に4年目を迎える団体である．市民レベルからの提言により，既存の線路が無いところに全く新しく地域交通体系改善のためにLRT導入実現を目指している市民団体である．会員数は 2002 年 3 月現在135名である．運営方法は意志決定機関として世話人会を設け,活動に際して部会を設けている．運営資金は会費からの収入がほとんどである．

これまで数多くのマスコミから取り上げられている．

(3) 発足の経緯

1997 年，大阪交通環境フォーラム 21 でコーディネーター・司会である長山泰久氏（大阪大学名誉教授・交通科学研究所所長）によるLRTについての話に参加者が刺激を受け，枚方市にLRT導入実現の可

能性を追求しようと 1998 年 6 月に枚方市民･有識者らが中心となって大阪大学名誉教授・交通科学研究所所長　長山泰久氏を代表として任意の市民団体である「枚方・LRT 研究会」を設立した.

(4) 活動経緯

活動内容として，今までの 16 回の研究会の内容を**(図 1)**に記した．**図 1** と枚方市の LRT に対しての動き，また資料等の詳細な検討，筆者自身の 3 年間の世話人としての体験により，「枚方・LRT 研究会」のこれまでの活動経緯を明らかにした.

設立時の **1998 年度**は枚方の交通に問題意識を持っている人,鉄道事情に詳しい人などが多かったが,会員の大半が全く初めて聞く「LRT」というキーワードを追って，研究会では講演活動を主に実施している.

1999 年度では「公共交通の現状分析部会，中心市街地部会，バリアフリー部会」が設置され，LRT の導入基盤でもある,「枚方」について学ぼうという取り組みが行われている. 年度末には今までの「枚方・LRT 研究会」の成果を「枚方市次期総合計画策定」のための市民提言発表会において口頭発表した.

2000 年度は重要活動方針として，3 年間の研究活動の成果を踏まえて,「行政」に対して枚方における LRT 実現の必要性と可能性について述べる「提言」の作成に重点がおかれた．その他の取り組みとして注目すべき点として,「枚方」のどこに実際，LRT を通すのかまで議論を踏み込んでいくようになっている.

6 月には市長が所信表明で「LRT」という言葉こそ出さなかったものの,「環境負荷の軽減やバリアフリー化など快適なまちづくりへの可能性を広げる新たな交通システムの研究を進めます.」と言明し，また市の総合計画に LRT という文言が初めて取り入れられ大きな前進となった.

2001 年度では「枚方」における LRT による都市交通体系を具体的に会員や会員外の方と議論しようと「トランジットモール，パークアンドライド・料金システム」のワークショップを行っている.

今後の動きとしては 2002 年 6 月の総会にて NPO への発展の可能性も視野においた会則の改定を行うこととなっている.

以下に時系列を通してアプローチ別に見た活動経緯を分析する．**(図 2)**

・「LRT」

枚方市の交通問題を LRT によって解決すると訴えていくには会員がまず先に LRT について学ぶ必要がある．そのため当初より現在に至るまで積極的に「LRT」についての知識の獲得につとめている. 定例の研究会を見てみると発足当初は LRT の基本的な知識の獲得を目指して研究会を催している．その後，実際に LRT 導入を行うに当たっての知識の獲得に取り組んでいる.

・「枚方」

「枚方・LRT 研究会」では LRT に関する一通りの知識を得た上で，99 年度から先に述べたそれぞれの部会で枚方市の現状を学んだ.その後,具体的な LRT による都市交通体系を検討するため，2001 年度にパークアンドライド部会，トランジットモール部会を設立し，議論を行っている.

・「行政」

行政へ向けたアプローチとして，1999 年 3 月に枚方市第 4 次総合基本計画を視野に入れた，政策提言発表会にて「枚方の新しいまちづくりのために LRT の導入を！」の論文発表，また 2001 年 5 月には「枚方・LRT 研究会」の総会にて市長へ「枚方に LRT を実現するための提言」を提出している.

行政からは，市長の所信表明で「新たな交通システムの研究を進めます」といった発言や市の総合計画において明文化された「LRT」という文言は活動の成果とも言えるが，一方，市当局の姿勢は LRT 導入に対して踏み切っていない．つまり，枚方市の公共交通政策の転換が未だ基本的に打ち出せていない．その背景には自動車交通抑制政策という難しい問題があると考えられる．LRT 導入には行政が検討し，決定する以外に実現は不可能である．今後，行政にどのようにアプローチしていくか,また,行政と「枚方・LRT 研究会」の役割の明確化も検討する必要があろう.

・「市民」

99 年度事業計画で「市民に対して幅広く LRT に対しての広報活動を実施する」とあったが，実際行った行動は特になかった．市民への理解無しに LRT 導入実現は不可能である．今後，市民へのアプローチ

98 年度
1:「枚方にも新しい路面電車を！」（代表長山氏）
２：「人にやさしい交通と LRT」（世話人　三星氏）
３：「低床式新型路面電車時代の幕開け－40 万都市枚方での可能性と課題－」（広島電鉄　中尾氏）
99 年度
４「LRT ライトレールと交通まちづくり」（東京大学　太田氏）「LRT 実現へのハードル」（RACDA　岡氏）
５：「LRT 実現への戦略と戦術」（元大阪府都市整備局長　岡氏）
６「公共交通の現状分析部会中間発表」（世話人ら）
７：「ヨーロッパ視察旅行報告会」（世話人ら）
８：「中心市街地部会・バリアフリー部会中間発表」（世話人ら）
00 年度
９：「LRT とまちづくり」（東京大学名誉教授　新谷氏）「LRT ルートを考える」（世話人ら，JAPIC 遠山氏）
１０：「ルートウオッチャー（LRT ルート予想ルートの見学と枚方市の環境再確認）」
１１：「枚方市長への提言中間発表会」（提言起草委員会）
１２：「提言案発表，LRT 推進団体交流会」
01 年度
１３：「路面電車とまちづくり」（熊本市交通管理事業者　市原氏）「環境保全都市をめざして」（枚方市長　中司氏）
１４：「新しい公共システムの動向」（豊田自動車，日本 OTIS,超低床 LRV 台車技術組合，近畿車輛）「枚方市における市民の都市交通に対する意識について」（世話人　平田，田畑氏）
１５：第１回ワークショップ　トランジットモール「LRT とまちのにぎわい」（「LRT によるトランジットモールとまちの活性化」（兵庫県交通政策担当　本田氏））
１６：第２回ワークショップ　「市民に愛される LRT（新型路面電車）とは」（「生活の質と賑わいを目指したトラム導入と都市政策」（（株）アトリエ UDI 都市設計研究所代表　望月氏））

図１　定例研究会の内容

をどのように行っていくか検討をしていくことが必要であろう．

(5) 会員意識調査

(a) 調査概要

「枚方・LRT 研究会」に対して，会員の意識を把握し，また今後の研究会のあり方を検討するために会員意識調査を行った．配布数は 135 部，回収部数は 33 部，回収率は 24%である．主な内容として今後の研究会のあり方，行政・市民との関係のあり方等である．

(b) 調査結果

「枚方・LRT 研究会のあり方」としては，「大変満足、ほぼ満足、やや不満、不満」の４項目で聞いたところ，ほぼ満足が 52%、やや不満が 35%と２番目に多い割合となった．理由として記述欄に書かれたことは学問的遊びが続いているのではといった厳しい意見が聞かれた．また「枚方・LRT 研究会」が第一に取り組んでいかなければならない課題として，市民に訴えていくが 56%と半数以上を占めた**(図 3)**．行政との関係のあり方では，LRT に理解をしてもらう議員を増やす，また交通実験を行い，行政を巻き込んでいくといった意見が聞かれた．市民との関係のあり方では研究会を PR する場を設けイベントを行う，また自治会などに出向いてフォーラムを行うといった意見が聞かれた．LRT 導入後の具体的なプランを作成すべきといった意見もあった．

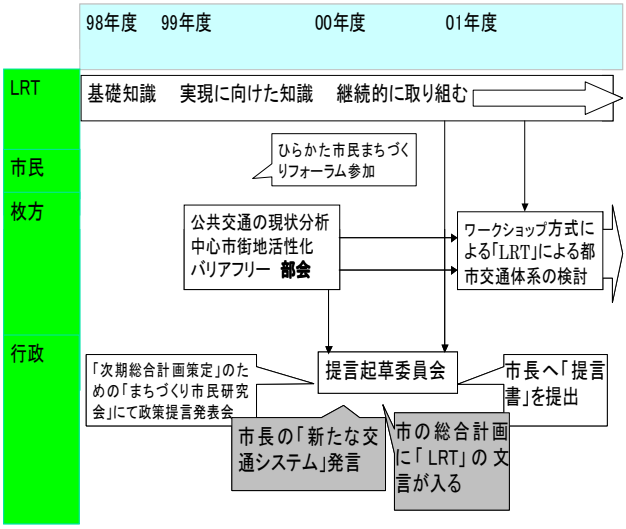

図２　枚方・LRT 研究会活動経緯図

3. 比較事例調査

(1) 概要

本研究を考察するにあたり，比較事例として活発に活動を行っている市民団体にインタビュー調査を行った．ここでは，本研究の考察に特に参考となった「LRT さっぽろ」「路面電車と都市の未来を考える会・高岡（略称：RACDA 高岡）（以後，略称）」を取り上げる．

(2) 調査結果

(a)「LRT さっぽろ」

この団体は LRT を将来の札幌市におけるまちづくりの一手としてとらえている．団体の特徴として「市民のシンクタンク」として知識を集約させ，プランを形成することを方針とするため 10 数名の少人数の団体である．しかし会員は街の専門家集団であり，LRT を中心としたまちづくりへの提言活動を行うに当たって十分な組織体制といえる．この会の最大の特徴は具体策の盛り込まれた提言書である．それを発信することで，札幌だけでなく全国にネットワークが一気に広がった．

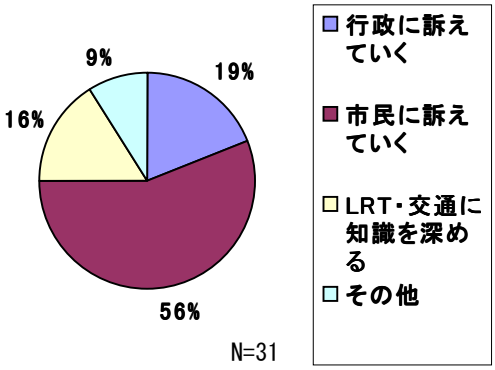

図 3　枚方・LRT 研究会が第 1 に取り組むこと

(b)「RACDA 高岡」

1997 年，万葉線の存続を担当していた高岡市職員が「路面電車と都市の未来を考える会・岡山（略称 RACDA 岡山)」を視察し，活動に感銘を受け市民団体を立ち上げた.この市民団体の特徴として 30 回以上の出前フォーラム「ラクダキャラバン」(地域の集まりに出向いて話をする）と万葉線を使ったイベントである.

イベントで会の活動を市民に広め，キャラバンで市民が理論を身につけるというのが作戦である．結果，万葉線は存続された．この活動が成功した理由として，会長の強力なリーダーシップと会員の団結力，そして意識の高さがあげられるという．存続決定後も活動を続けていくという.

4. まとめ

本研究のまとめとして，LRT 導入による地域総合交通体系の改善を目指した市民団体の取り組みとして，大きく 3 つに分け，その活動の方策と課題について述べる.

まず第 1 にプランの形成であるが，都市交通問題を考える市民団体にあたっては抱える問題が複雑かつ多岐にわたり，秀でた専門家が必要であるといえる．また優れた調査研究は各方面から注目を集めることが出来る.「枚方・LRT 研究会」では幸運なことに専門家は数多くいる．会員意識調査でもあげられたように更なる LRT 導入後の具体策を描き，行政・市民が納得できるような活動を行うことが課題であると考えられる.

第 2 に行政や各組織への働きかけであるが，要となる人物・組織に理解を頂くことが，行政や各組織と強い連携に結びつくと考えられる.「枚方・LRT 研究会」では会員のネットワークを駆使し，枚方市民に浸透していくと同時に，他の枚方市の市民団体と提携することにより，枚方市を総合的にみた効率の良い活動を行っていく必要もあると考えられる.

第 3 に市民の世論形成があげられる．今回，調査を行った多くの団体では市民が興味を引くイベントやフォーラム（出前講座等）を行っている.「RACDA 高岡」ではイベントで市民の関心を引き，フォーラムで都市交通の解決策の理論を市民に訴えていくことにより目的の実現を果たした.

調査研究を主として活動をしてきた,「枚方・LRT 研究会」では目的実現のために，今後この問題については大きな課題といえる．会員意識調査においては 1 番目の項目に市民に向けた訴えというのがあがった．しかし，他の LRT 推進団体と比べて，枚方には現存の路面電車が存在しない．そこで枚方では，問題になっている交通問題とその影響を市民に訴え，その解決に向けた気運を盛り上げていくことが第一歩ではないかと考える.

[参考文献]

1) 長山泰久：LRT（高速路面電車）の導入に向けて－枚方市における市民レベルでの活動－，都市問題　第 91 巻第 12 号　pp59-pp72 2000 年 12 月.
2) 太田勝敏編著：新しい交通まちづくりの思想－コミュニティーからのアプローチ－，鹿島出版会，1998.
3) 計画・交通研究会　NPO 研究グループ報告書：都市圏交通計画における非営利組織(NPO)の役割に関する研究，2001.
4) 久保田尚：交通まちづくりの実践に向けての課題と展望，交通工学 vol34 No5 pp3-pp8，1999.
5) 久保田尚，高橋洋二，松原悟郎，岩崎正久，尾座元俊二：地区交通計画の策定における市民参加の役割に関する研究－鎌倉市の古都地域を対象として－，第 31 回日本都市計画学会学術研究論文集　pp415-pp420,1996.
6) 枚方市：枚方市総合交通体系報告書，1997.
7) RACDA(路面電車と都市の未来を考える会)編著：路面電車とまちづくり，学芸出版社，1999.
8) 枚方・LRT 研究会，LRT さっぽろ，RACDA 高岡　各資料，及びホームページ